

● わしは博士。タイムマシンを使ってしまった事
● で今、どんどん昔にタイムワープをしている所
● じゃ。
● わしは、ついにきょうりゅうの時代に来てしま
● ったのじゃ。
● しかも、ここでタイムマシンの電池がきれてし
● まった。そう、もう動かせないのじゃ。
● わしは、決意した。
● わし、ここできょうりゅうとして生きていく。
● とりあえず、他のきょうりゅうにバカにされな
● いためにも、鳴き声の練習じゃ。
● 「ギャオーウ」こんな感じかな。
● すると、後ろから、
● 「クスクス」と笑い声が聞こえた。
● ふりかえると、小さな女の子がわしを指さして
● 笑っているではないか。どうして。
● 「こんな時代に君はどうしているのじゃ。」
● すると、女の子は、
● 「あら、私は未来から旅行に来ているだけよ」
● と自分のタイムマシンを指さした。
● わしは、はっとした。そうか、これにのれば、
● 未来に、つまり、わしのいた時代にもどれる。
● 「そのタイムマシンに、わしをのせてくれ！」
● 「いいけど・・・。」
● わしは、うれしさのあまり、スキップしながら
● タイムマシンに乗りこんだ。すると、放送が。
● 「ブー体重オーバー。一人おりてください。」

問
い 1 博士はほかのきょうりゅうにバカにされない
ために、きょうりゅうの（
練習しはじめた。 を

問
い 2 女の子のタイムマシンにのりこんだ博士。
しかし、（